



インターンシップ配属先は商業観光課祭りのスタッフと一緒に作り上げた「流しそめん」は大好評

広報 おおづ 2016 10

発行・編集 ■大津町・総務課
〒869-1292 熊本県菊池郡大津町大字大津 1233 番地
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/> ※広報のおおづは環境に配慮して再生紙と植物油墨を使用しています。

UD
FONT
風やすぐ読みまちがえにくい
コンピューターでデザインソフト
を採用しています。

私にはまだ勉強 するべきことが たくさんある



なかむら としき
中村 俊貴さん（大津）

大津から熊本市内の大学へ通う中村さん。9月に10日間限定でインターンシップ生として町役場で働いた。今回はそんな中村さんにクローズアップする。

中村さんは大学では地域経済学を学んでいる。地域を盛り上げるにはなにをすればいいのか、人を呼び定住させるためにはどうしたらいいのかを学んでいる。なぜその分野を勉強したいのか「自分の知る地域で自分を知ってこれている近所のおじさん、おばさんたちのためになにかできないかと本気で考えたからです」と照れながら話す。その笑顔は少し幼く見えた。

彼がインターンシップ先で町役場を選んだきっかけは平成28年熊本地震。被災した体験からだ。避難所での生活を振り返る。

「当たり前がなくなる。とてもつらい体験でした」中村さんはうつぶく。「でも同時に貴重な体験でした。自分が生まれ育った地域の人たちが、お互いに助け合っている姿を見られたからです。自分にも何かできるのではないかと考えるきっかけになり、ひとつの手段としてインターンを選びました」瞳には力が宿る。

「役場で働いてみて変わったのは町をもっと好きになったこと。同時に私の中の理想の大津町が見えてきました」そう語る中村さんの声には先ほとは違った、大人の顔が覗く。「この短い期間の間にたくさんの人と関わり、私にはまだ勉強するべきことがたくさんある。それはとてもうれしいこと。地域の発展のためになにかできるかをもっと考えたい」と話す顔には光がさしていた。

ついでの声

▼今年の地蔵祭りの取材は本当に楽しくできました。地震後にどれだけの人々が来るのだろうか。ステージイベントは無事にできるのだろうか。など勝手に一人で考えていました▼当日は大盛況。人が公園に集まる姿をみて大津町は強いと改めて感じることができました▼最近、取材先のイベントなどで子どもたちにも声をかけられるようになりました「おお、また会ったね。カメラマン」「おお、こんにちは」広報づくりは小さな情報提供者にも助けられています (IDEO)

からいもくん便り

大津町総合情報メール
携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。
QRコード
登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報 おおづ

今月の表紙

8月23日～24日に大津中央公園で行われた地蔵祭りでの一コマ。大津町出身で津軽三味線奏者の神井大治さんのパフォーマンスに会場は盛り上がりました(地蔵祭りの記事は6ページ)。

今月のみどころ

熊本地震から半年を迎えて～大津町民の皆様～
町長の今の思いを綴ります

大津地蔵祭

地震から立ち直る元気な大津町をご紹介します

10

OCTOBER 2016

町村合併 60周年記念

